

令和3年度

恵那北小学校だより

8月26日号

げんきたっ子



夏に育つ

伊地知みゆき

36 日間の夏休みが終わりました。コロナ感染の拡大で人との関わりや活動に制限の多い中、子供たちが今の環境を受け止め、元気に過ごしてくれたことをありがたく思います。

見守ってくださった全ての方に感謝です。

東京オリンピック・パラリンピックの開催、コロナ感染拡大、大雨が続く異常気象等で、様々な思いや意見が飛び交い、世の中がまさしく混沌としています。。そんな中、夏休み前日ポーランドのカヌー選手の練習を全校揃って直接見学できたことは、貴重な経験でした。暑い日でしたが、水筒持参で応援うちわを振った時間は、笠置峡の夏の思い出として深く心に残ったと思います。これから自分たちの生まれ育ったふるさとの素晴らしい環境を誇りに思いながら、世界や世の中の状況に目を向けていってほしいです。

カヌー以外にも、オリンピック・パラリンピックの選手を応援する中で、夢を追い続けるひたむきな姿に感動した人も多かったと思います。コロナ感染症が爆発感染している今、コロナ禍の開催に当たっては様々な考えがありますが、子供たちの心により影響を与え、前向きな考えが育ってくれることを願っています。

夏休み中、地域では毎週のように感染予防を徹底した、子供たち対象の活動を開いてくださっていました。地域の方と触れ合いながら普段できない活動を経験させてもらいました。



5年生が米づくりでお借りしている田んぼが
にぎやかになりました

その中で「かかしプロジェクト」は北小6年生の夏の伝統活動になっています。1学期中に子供たちが考えた図案を元に、夏休み1日かけてかかしを作り上げていく活動です。今年度は6年生が4グループに分かれて2体ずつ計8体のかかしを作り、5年生が米づくりで使わせてもらっている田んぼに飾らせてもらいました。森に囲まれた田んぼに「げんきた田んぼ」の看板と8体のかかしが佇み、撮影スポットに推奨したい出来栄になりました。

それぞれの夏を過ごし、様々な経験と思いを重ね成長した子供たち。心も体も大きくたくましく育っていると思います。コロナ感染症や熱中症に気をつけながらの学校生活が始まりますが、身に付けた知恵や知識を生かして、今できること、今しかできないことを工夫して取り組んでいきたいと考えます。

